



アミール・ツアルファティ
[2024年4月14日 ニュース速報]
イランの攻撃およびイスラエルの対応
<https://youtu.be/EXA8uJQPeGw>

シャローム、皆さん。アミール・ツアルファティ、ガリラヤからライブです。これは、速報と呼んでいいのかわかりませんが、しかし、昨夜の出来事の余波に関する重要な最新情報です。いいですね？非常に重要です。多くの人は、誤解していて、それが来るのを誰も予測できず、地域全体が不意を突かれたと思っています。すべてをいくつかの言葉で説明したいと思います。ちなみに、すぐそこがエズレル渓谷です。高い可能性で、もうすぐ離陸音が聞こえるか、または、あの空軍基地から離陸するF-16が見えるかも知れません。私がこれから話すことのほとんどは、ヘブライ語名でアディール、F-35についてですが、その理由については後ほど説明します。さらに多くの人々が接続しているのを確認できるまで、少しお待ちください。このビデオを共有してください。繰り返しますが、この動画は近々 YouTube にアップロードされます。しかし、動画では、ほんの一部の情報しか提供しません。それ以外のすべて、ビデオ、地図、数字、データ、すべてが私のテレグラムチャンネルにあります。ですから、そのアプリを入手することをお勧めします。そして、私をフォローしてください。いいですか？



では、改めて、皆さんシャローム。アミール・ツアルファティです。ガリラヤからライブです。すぐそこにエズレル渓谷が見えます。おっと、こっちです。エズレル渓谷。

では、昨夜何が起こったかを要約しましょう。おそらく皆さんもご存知のとおり、イスラエルは、主にイラン国土から攻撃されました。主にとというのは、一部の UAV やミサイルが、イラク、シリア、イエメンから発射されました。ヒズボラは、後にカチューシャロケットで少し参加しましたが、攻撃の大部分は、イランからでした。イランは 300 機以上の航空機を打ち上げ、一部は UAV、一部は巡航ミサイル、一部は弾道ミサイルです。弾道ミサイルは大気圏に上昇し、落下するため高速です。巡航ミサイルは、飛行機と同じように低空を巡航するため、時間がかかります。遅い飛行機と言っても良いでしょう。さらに UAV は、それよりもはるかに遅いです。基本的に、イランはあらゆるものを発射しました。そして、今、私たちに分かっていること、私たちとは国民のことで、権力者のことを言っているのではありません。私たちが今知っていること、現時点で公式になっているのは、米国が警告を受けていたということです。というか、警告ですら

なく、この全体がいつ、どのように起こるかなどの情報を受けていて、米国は、イランにそれをしないよう説得しようとしたが、イランはそれを実行することを強く決意していました。しかし米国はトルコ経由で、何が、いつ起こるのかなど、情報を受け取っていました。もちろん、イスラエルは情報を受け取りました。しかし、皆さんは理解する必要があります。イランからこの情報を受け入れるということは、まるで、一線を越えない限り、それを行うことに同意しているようなもので、私たちは、それに非常に憤っています。なぜなら、何であれ、350機近い飛行物体を突然発射しても良いとは、いったいどういうことですか？ただそれを実行しても大丈夫とは、どういう意味ですか？ホワイトハウスは、ワシントン DC に飛来して来る 350機の飛行物体を迎撃しても、それを勝利と呼ぶのですか？もちろん違います。このような主権侵害を容認する国はないでしょう。しかし、それは脇に置いてください。まず、イランが何を考えていたか、それから、イスラエルが何をしたかをお話して、そして、他にも興味深い情報を、いくつかお伝えします。

まず第一に、アブラハム協定が締結されて以来、合意の一部は、中東における、イスラエルとアラブ諸国との間の新たな同盟関係で、さまざまな金融、経済分野で協力します。しかし、セキュリティ分野でも同様で、私たちは情報を共有し、指揮センターを共有する協定に署名しています。それが、私たちが創設した中東防空、MEAD です。わかりますか？そのため、基本的に、昨夜、この MEAD を、初めて本格的に運用したのです。サウジとヨルダンが、ロケット弾や UAV の迎撃に協力したという事実は驚異的です。そして、事実、中東の空域全体が、実際、脅威に対処するために、イスラエルに制空権が与えられたのです。前例のないことです。ヨルダンは領空を閉鎖し、サウジも領空を閉鎖、そして基本的に、空域が私たちに与えられました。なぜなら、イスラエルの F-35 すべてが、UAV や巡航ミサイルを迎撃していたのは、イスラエル領土内ではなく、ヨルダン、シリア、サウジ領土内でしたから。これは驚異的です。よく考えてください、これは信じ難いこと、これは中東における新しい時代です。F-35 は、我が国が保有する、唯一、UAV と巡航ミサイルを撃墜する能力を備えた戦闘機です。その他の戦闘機は、他の戦闘機との戦闘に関して、空対地および空対空に向いています。しかし、F-35 は、はるかに先進的です。ちなみに、まさにこのために、イランは、イスラエル南部のネゲブにあるネヴァティム空軍基地を標的にしていたのです。イランは、実際に2つの標的に損害を与えたと発表しました。イランは、事実、民間人の標的ではなく、軍事的標的だったことを誇っていますが、これはバカげています。それは愚かなことです。なぜなら、防空システムも提供したイスラエルの神がいなかったら、多くの人々が死亡していたでしょう。しかし、それは忘れてください。ネバティム空軍基地を狙ったのは、ダマスカスで将軍を殺したロケット弾を発射した F-35 が、そこから離陸したからです。そして、彼らが損害を与えたと主張する、もう一つの標的は、ヘルモン山のイスラエル軍の前哨基

地です。イランによれば、それは、ダマスカスの建物への攻撃中に、F-35 を指揮した司令センターだと言います。

もう一つ修正したいのは、イスラエルは、大使館を攻撃していません。これは、イランがイスラエルへの攻撃を正当化するために、世界に伝えていることで、私たちは、大使館に損害さえ与えていません。私たちが攻撃したのは、イラン革命防衛隊の基地だった別館で、彼らは、自分たちの行為を隠すために、それを領事館と呼んだのです。しかし、いつから領事館が大使館内にあるのですか？領事館は、別の場所にある大使館の支部です。しかし、彼らは、外交上の地位が必要だったため、それを領事館と呼んだのです。そうすれば、それを傷つけたり、損害を与えたりすれば、その国を攻撃したとみなされますから。それがすべてです。しかしイスラエルは、ダマスカスのイラン大使館は攻撃していません。それはまだ立っていて、開いており、大使館には何も起こっていません。周囲の大使館にも何も起こっていません。ですから、これは非常に明確でなければなりません。

さて、昨夜の出来事についてもお伝えしましょう。基本的には、米国が私たちに情報を提供しました。米国は…ええ、とても複雑な気持ちです。なぜなら、一方で米国の協力に、とても感謝しています。しかし一方で、私は激怒しています。米国政府は、イランがあれを行うことを許し、それが制限内に留まり、いくつかの線を越えない限り良しとしたのです。皆さん、約 350 機の飛行物体がイスラエルに向けられて、そのうち 120 発が弾道ミサイル、それに UAV、巡航ミサイルです。これは地球史上最大のドローン攻撃でした。でも、そのことは忘れてください。宇宙、大気圏の上で…なぜなら、イスラエルは宇宙で弾道ミサイルを迎撃する、アローの技術を明らかに利用しましたから、昨夜、世界は前代未聞のものを宇宙から目撃しました。つまり、昨夜は、最大規模のドローン攻撃と、大気圏上空での最大規模の爆発が起こったのです。昨夜はクレイジーでした。ところで、皆さんが目にした、イスラエルに入ってきたもののほとんどは、実際、大気から飛んで来た破片や、迎撃装置の一部で、それで警報が作動したのです。だから、皆さんが見た、地図上に警報が鳴っている場所を示すすべての点は、ロケットが発射された場所ではなく、警報が作動した場所です。そしてほとんどの場合、警報は迎撃によって作動されました。わかりますか？それを理解することが重要です。

さて、昨夜、壮大なことが起こりました。イランは正式にバルコニーを去り、観客の立場を去って、フィールドに入り、私たちが現在戦っている戦争のプレイヤーとなりました。イランは、初めて、公式にイスラ

エルを攻撃しました。1948年にイスラエルが誕生して以来、イランがイスラエルを直接攻撃するのは、初めてです。

さて、なぜイランは、それをすることに全く抵抗を感じなかったのか？ジョー・バイデンです。彼らは、バイデンがイスラエルの反撃を禁じることを知っていました。彼らは、バイデンが、何らかの方法で彼らに対して何かをするほど強くないことを知っていました。彼らは、この政権が常に交渉や外交的解決などのナンセンスを重視していることを、知っていました。そして、最後の最後に、ホワイトハウスが声明を発表した時でさえ、彼らは、外交的な対応を求めていると述べました。さて、これは中東ではなく、アメリカとヨーロッパの人だけに通じる言語です。数百機のドローン、数百機の弾道ミサイル、そして100機以上の巡航ミサイルによる攻撃に対する外交的解決策などありません。それに対する外交的な対応などありません。

さて、イランは二つのことを示しました。彼らが示したのは、A、彼らの能力はそれほど高くない。B、彼らはイスラエルの防空システムが、驚異的であることを証明しました。そして、昨夜、大成功を収めたことが証明された連合は、すでに存在していて、昨夜形成されたものではないことを証明しました。ですからイランは、イスラエルでは何も起こらなかったという現実を目覚めたのです。イスラム教徒のベドウィンの7歳の少女が、迎撃機の破片で重傷を負いましたが、それだけ。それだけです。ネバティム空軍基地は、若干の被害がありましたが、深刻なことは何も起こらず、今朝でさえ、F-35は離着陸を続けています。ヘルモン山の基地には被害はありませんでした。皆さん、完全な失敗です。しかし、私が言いたいのは、私たちは、結果を見るのではなく、そのようなことを行った、実際の行為を見るべきです。そして、イスラエルはそれに報復すべきだと私は思います。それも、強力に、断固として、謝罪することなく報復すべきです。私たちは、しなければなりません。さて私たちは、いつ、それをやるのか？私たちは、米国と、この地域の同盟国の合意を得てそれを行うことを望んでいます。なぜなら、私たちは、初の対イラン連合を構築できるのです。イランは今、もはや、我々が話し合える正当な同盟国ではありません。彼らは何者で、何をしているのかを、誰もが理解しています。しかし、ズルズルと引き伸ばして、この72時間以内に何もしなければ、我々は弱いと認識され、さらなる問題を引き起こすと思います。まさに、ハマスの20年間と同じように。彼らがこちらに送ってきたロケット弾に対して、我々は、一切強力に報復せず、そのため、我々は、10月7日にその代償を払いました。私たちは、怒りを抑えて理解したり、自制心を示して、強力な報復をしない、なんてすべきではありません。これは直ちに対処、報復し、応えるべきです。イランが、我が国の防空力を使い果たすのが習慣になる前に。

さて、もう一つの問題は、皆さんは知らないかもしれませんが、しかし、イランが使用したミサイル、弾道ミサイルの多くは、実際、ロシアの古いスカッドミサイルを改良したものでした。これらは安価で、よくわかりませんが、ロケット1基につき10万ドルか、20万ドルの、爆発物と燃料が詰まった巨大なパイプです。しかし、イスラエルが部隊として発射していた迎撃ミサイルには、昨夜10億ドル以上を費やしています。ですから、お分かりでしょう。これは、私たちを経済的に疲弊させ、空にする別の方法です。ところで、彼らが今離陸しています。聞こえるかどうか分かりませんが、試してみます。私には聞こえていますが…ともかく、皆さん、結論として皆さんに知っておいてほしいのは、イスラエルは、報復しなければなりません。

イラン人は恐れていて、彼らは燃料を求めて列をなしています。彼らの空港は閉鎖されています。彼らは、何か大きなことが起こることを理解しています。何が起こるかは、彼らは知りません。

さて、イスラエルには何ができるか？主な標的が4つあります。一つは石油産業です。彼らの石油産業。イランは石油の輸出に大きく依存していて、2019年に、彼らがサウジに対してやったのと同じように、我々も、実際に彼らの石油産業を麻痺させることができます。2つ目はダムです。イランには、私たちが破壊できるダムがたくさんあります。そして、そうすることで、A、ある程度の損害を与え、また、発電所を停止させます。そして3つ目は、ケルマーンシャーや、イスファハン、その他の場所にある、多くの地下ミ



サイル格納庫です。(F-35を指して)ほら、来ました。今離陸中です。それとも着陸中…はい。ええ、彼らは任務から戻ってきました。聞こえます。そして4つ目は、もちろん、私に言わせれば、それが最も重要で、4つ目はイランの核開発です。15の異なる施設があります。ほら、私たちに

正当性があります。私たちにチャンスがあって、私たちに機会があります。長年にわたり、私たちは理由…理由ではなく、攻撃するための口実、攻撃する機会を探してきて、今はそれがあのです。イスラエルが報復しなければならないことは、全世界が知っており、我々は報復すべきです。そして、もし私たちが報復するなら、私たちが目指す目標の多くを達成できる方法で行うべきです。つまり、彼らが爆弾を組み立てる前に、核開発計画を停止することです。石油産業に損害を与えて、経済を麻痺させることも同様に。ですから、私たちにできることはたくさんあります。

ロシアは沈黙を保っています。ロシアは昨夜のイランのパフォーマンスを、非常に恥じているのだと思います。中国はかなり沈黙しています。すぐに何が起こるか分かるでしょう。しかし、4月14日は歴史的な

日だったということは確かです。そして皆さん、言っておきますが、中東では、このようなことはこれまで見たことがありません。イスラエルは、このようなことを一度も見たことがありません。

繰り返します。史上最大のドローン攻撃です。そして、弾道ミサイル迎撃による最大の爆発が、大気圏上空で見られました。テレグラムで私をフォローすれば、大気圏上空での爆発を映したビデオが、少なくとも1つあります。あれは驚きです。とても素晴らしいです。しかし繰り返しますが、昨夜、中東の空域全体が空になり、そして、制空権がイスラエルに与えられました。我々が撃墜するためです。ほら、ほとんどのものは、我々が撃墜しました。しかしフランス、イギリス、もちろん米国、ヨルダン、サウジアラビアも迎撃に協力しました。驚異的、前代未聞です。すばらしい。しかし同時に、それを勝利と呼ぶことはできません。奇跡だと言えます。良い結果が出た、とも言えます。勝利とは、防御力が優れているときに得られるものではありません。勝利とは、攻撃力が優れたときです。防衛とは、自分たちの部隊、軍隊が攻撃、出て行って、敵を破壊できるようにするためのものです。私たちは、1948年以前とは違います。私たちは、ホロコーストや、ユダヤ人大量虐殺の時代には居ません。私たちは、次に何が起こるかを、座って待っているわけではありません。そんな時代はもう終わりました。私たちには、行動できる軍隊があります。まさに、私たちが1967年にしたように、今こそ、この瞬間を利用すべきです。

私の問題は、状況が分かることです。1時間経つごとに、正当性、緊急性、そして仲間意識と連帯感が、時間の経過ごとに蒸発していきます。思い出してください。10月7日、みんなが私たちの味方でした。それが6か月後、世界の90%が、私たちに全く同意していません。ええ、今攻撃しないと、そうなるでしょう。もし私たちが、引き延ばし、待つなら、良い結果に終わりません。それは、弱さを見せることになります。ここは中東です。アラビア語やペルシャ語を話さねばなりません。英語やフランス語は通じません。そういうものです。

詳しい情報については、引き続きテレグラムで私をフォローしてください。これを、できるだけ多くの人と共有してください。そして...祈りましょう。神が完全にコントロールしておられます。神にお任せして、主に栄光と称賛を帰しましょう。ありがとうございます。神の祝福がありますように。



アミール・ツアルファティ テレグラムチャンネル

ビホールド・イスラエル 日本語チャンネル

<https://www.youtube.com/@BeholdIsraelJapanese>

日本語の聖書箇所は特記がされていない限り新改訳 2017 より引用しています。

聖書 新改訳 2017©2017 新日本聖書刊行会

メッセージの無断転載を固く禁じます。

Copyright © ビホールド・イスラエル All Rights Reserved.

